



藤中だより

保護者・地域に信頼される学校を目指して

〈目指す生徒像〉

- よく考え工夫して学ぶ生徒(知)
- 人と自分を大切にする生徒(徳)
- 心と体を粘り強く鍛える生徒(体)

令和6年10月1日 校長 竹田 聡

〈年度の中間点〉

日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

9月7日(土)に開催した藤中学校文化祭に、多数の方に来校していただきありがとうございました。また、1、2年生の運動部では、9月19日～28日に行われた新人入間北部体育大会・入間地区大会に際し、ご理解、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

さて、10月は学年の中間点です。そろそろ1つ上の学年を意識して生活する時期だと言えます。半年後の姿を思い描き、目標に近づけるように日々の積み重ねが大切です。後期は下校時刻が早くなり、自分の時間が増えます。増えた時間を有効に使えるように、ご家庭でも話し合ってください。

また、夕暮れが早くなり、交通事故や不審者対応などの心配事も増えます。学校でも安全指導を行いますので、ご家庭でもご協力をよろしくお願いいたします。

〈有事に備える〉

毎年9月1日は「防災の日」で、1959年の伊勢湾台風の教訓を忘れないようにするために設けられました。台風による大きな被害を受けた地域の人々の記憶を風化させず、災害への備えの重要性を再認識することが目的です。

8月29日(木)に、大地震の発生を想定した避難訓練を行いました。生徒は放送をよく聴き、スムーズに体育館に集まり、安全確認を行いました。訓練の講評で、私から東日本大震災の体験を話しました。

【体験談の概要】

東日本大震災が発生した当時、私はさいたま市の中学校に勤務していました。大地震が発生したときには、緊急放送を流す立場でした。地震が発生して数秒は様子を見ていました。大きなゆれが始まり、危険を感じて緊急放送を流すまでに20秒はかかったと思います。ですから、大地震でも、すぐには放送を流せないと思います。自分で判断し、身を守る必要があります。また、3/11に体育館にいた生徒は、体育館がきしむ大きな音に悲鳴をあげながら、外へ逃げ出しました。

その学校は、半数の生徒が電車通学でした。電車が止まり、帰宅困難な生徒は保護者の迎えを配信し、引渡し完了したのは夜11時頃になりました。鉄道が止まった際の対応も想定する必要があります。…

大地震は予測困難です。ですから、発生時を想定した準備がとても大切になります。

8月30日(金)は未明の豪雨で、藤中学校の南側を流れる大谷川があふれ、冠水し通行止めとなる道路もありました。その他に9月に落雷による短時間の停電もありました。ご家庭でも様々な自然災害への備えをよろしくお願いいたします。

〈文化祭の意義について〉

9月7日(土)に、生徒会が中心となり、文化祭を開催しました。体育館のステージ発表では、吹奏楽部・美術部・技術学芸部の文化部が趣向を凝らした発表を行い、人権作文・英語スピーチコンテストの代表者の発表、有志発表Fujiフェスと、今年度も藤中ならではの充実した発表でした。

藤中学校の文化祭には、2つの意義があると感じています。

1つ目は文化部の発表の場という意義です。私は部活動を通して、「緊張」を体験してほしいと考えています。大会のある部活動は、「緊張」を大会で体験できます。大会のない文化部は文化祭のステージ発表が、「緊張」を体験できる機会となります。これから先、入試や面接など人生の大切な場面では、必ず緊張すると思います。どの部活動にも、緊張する場面が設けられていることは、とても意義のあることです。

2つ目は、藤中の文化という意義です。文化とは「ある民族・地域・社会などで作り出され、その社会の人々に共有・習得されながら受け継がれてきた固有の行動様式・生活様式の総体。(明鏡辞典)」とあります。藤中の文化祭は、藤中ならではのスタイルで、続いていると思います。文化祭開会式で、私から「文化祭は“LIVE”だ。」と話しました。LIVEは発表者とフロアの観客が一体となり、成功します。盛り上げる場面もあれば、静かに聴く場面もあり、体育館にいる全員がメリハリをつけて参加することがポイントになります。

当日は、藤中らしさが表現され、楽しく充実した時間でした。これからも生徒の力によって、藤中の文化が継承されることを願います。

<生徒の活躍>

鶴ヶ島市内読書感想文コンクール

自由図書の部 優良賞 1名
入選 7名
課題図書の部 優良賞 1名
入選 7名

鶴ヶ島市科学教育振興展覧会

優秀賞 1名(入間地区展)
優良賞 1名
努力賞 5名

Tsurugashima, Ogose and Moroyama English Speech Contest
5th place 1名

新人体育大会入間北部大会(個人は入賞のみ)

野球 2位
サッカー2回戦惜敗
ソフトボール(註紳会)2位(地区大会1位 県大会)
ソフトテニス男子 団体2位(県大会)
個人 3位 (県大会)
ソフトテニス女子 団体3位
バスケットボール男子 3位
バスケットボール女子 2回戦惜敗
バレーボール2位(地区大会1位 県大会)
剣道男子 団体2位(県大会)
個人3位 (県大会)
ベスト8 (県大会)
剣道女子 団体予選リーグ惜敗
個人ベスト8 (県大会)
卓球男子 団体1位(県大会)
個人 シングルス1位 (県大会)
ダブルス1位 (県大会)
卓球女子 団体3位(県大会)
個人 ダブルス3位
陸上競技 男子総合1位 女子総合1位
<男子>
2年100m 1位
200m 1位 2位
800m 2位
1500m 1位 2位
3000m 1位 2位
4×100mR 3位
走高跳 2位
四種競技 2位 3位
<女子>
1年100m 2位
800m 3位
1500m 3位
100mH 1位 2位
4×100mR 2位
走高跳 1位 2位 3位
四種競技 1位 2位
走幅跳 2位

水泳競技 女子200m背泳ぎ3位

<「よい学校」～生徒会本部役員選挙～>

9月26日に、生徒会本部役員の立会演説会が行われました。演説会で私から次の話をしました。

<概要>

私から、感謝と考えてほしいことを1つずつ話します。

まず、藤中学校をよりよくしようと考え、立候補した皆さんに感謝を申し上げます。立候補のコメントを読み、藤中学校をよりよい学校にしたいという熱意が伝わってきました。その思いをしっかりと伝えてください。

次に「よい学校」とは何か考えてください。皆さんの思い描く「よい学校」がバラバラではどうなるでしょうか。「船頭多くして 船山に上る(指図する人が多くて方針の統一がとれず、物事が目的をはずれた方向に進んでしまうことのたとえ。)」とならないように、共通理解を図ってください。

私が考える「よい学校」は、皆さんが社会で活躍できるようになる学校です。でも、社会で働いた経験のない皆さんには、分からないと思いますので、「社会人基礎力」を紹介します。「社会人基礎力」は、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つの能力で構成されています。

生徒会活動を通して身に付けてほしいことは、3番目のチームで働く力です。チームで働く力には、発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)、傾聴力(相手の意見を丁寧に聴く力)、柔軟性(意見の違いや立場の違いを理解する力)、状況把握力(自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力)、規律性(社会のルールや人との約束を守る力)、ストレスコントロール力(ストレスの発生源に対応する力)の6つ能力があります。これらを参考にして、立会演説に参加してください。

社会人基礎力は、2006年に経済産業省が有識者会議により、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために、必要な基礎的な能力を示したものです。前に踏み出す力は「一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」、考え抜く力は「疑問をもち、考え抜く力」と定義されています。これらの2つは、個人でもできることです。チームで働く力は「多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」と定義されています。私の経験では、中学校や高校の行事、部活動は、チームで働く力を育みやすい場面でした。

藤中学校でも行事・部活動を通して、社会人基礎力を育みたいと考えますので、ご支援とご協力をよろしくお願いします。

<藤小学校と合同の安全教育>

本年度8月に、埼玉県教育委員会から、藤小学校と藤中学校が「学校安全総合支援事業」の指定を受けました。

今後、引渡し訓練や夕刻の避難訓練を計画しています。詳細が決まりましたら、ご案内いたします。